

令和元年度 第1回 学校運営協議会

1 日時 令和元年6月6日(木) 18:00~20:00

2 場所 布施高校文化会館

3 構成員

(委員)

東大阪市立長栄中学校校長 奥西 真弓 様

八尾市立八尾中学校(夜間) 教頭 辻 巧 様

(株)ベレーザコーポレーション 入江 孝史 様

星陵同窓会副会長 八木 佳奈枝 様

四天王寺大学参事 好川 佳司 様

保護者会会長 西田 麗華 様

(本校より)

准校長、教頭、事務部長、主査、首席・生徒指導主事、教務主任、進路指導主事、1年学年主任

4 内容

(1) 准校長挨拶

(2) 授業見学

(3) 議題

ア 学校運営協議会会長の互選

イ 令和元年度学校経営計画について

(4) 報告等

ア 令和元年度学校教育計画について

イ 各分掌から今年度の取り組みの説明(進路指導部、生徒指導部、教務部)

(5) 意見交換

(6) まとめ

5 説明・協議

(1) 学校運営協議会会長の互選

慣例により保護者会会長 西田 麗華様に決定

(2) 令和元年度学校経営計画について

ア めざす学校像

・昨年度末の内容を踏襲

イ 中期的目標について

・昨年度末の内容を踏襲

※ただし目標とする数値を一部修正

ウ 本年度の取組み内容

(ア) 確かな学力の育成

a 確かな学力の定着

- ・基礎学力検査を実施し必要な生徒に対して個々に指導を行う。

b 公開授業研究や研修を通じた教員の授業力向上

- ・今年度より、大阪府教育センターのパッケージ研修 I に参加。本日 2 名の教員が模擬授業を実施。
- ・今後、別の教科の授業を見学。取り入れるべき点、見習う点を自分の授業に落とし込む。

(イ) 豊かな人間性と規範意識を身に付けた生徒の育成

a 自尊感情（自己肯定感・自己有用感）の育成と人間関係づくり

- ・新学習指導要領により「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に。
→ 自ら学び自ら課題を発見するため、クエストエデュケーションを導入。

b キャリア教育・進路指導の充実

- ・布施定の強みであるインターンシップ、ジョブチャレについて、引き続き力を入れていく。

(ウ) 生徒支援と安全安心な学校づくり

a 問題事象等への迅速で適切な対応

- ・生指案件に関するマニュアルの作成
→ どの教員でも対応できるようにする。

b 教育相談と配慮を要する生徒支援の充実

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携
- ・スクールソーシャルワーカーは年間 192 時間を確保。
- ・スクーリングシートを作成し生徒の状況を把握。
→ 予測される事象に対して迅速に対応

c 家庭、地域との連携推進と開かれた学校づくり

- ・近隣中学校に布施定便りを定期的に配布。
→ 校長マネジメント予算でカラープリンターを購入。

○ 質問 昔は給食があった。今の生徒は食事をしてから登校しているのか

- 給食は現在府下で 3 校が実施。喫食率が低いため、実施できず休止している学校が多い。そのため単価も上がり予算の都合上本校で実施することは難しい状況。

○ 質問 「総合的な探究の時間」で具体的に何をするのか

- 探究活動をする。具体的には「困っている人を助ける」をテーマに意見を出し合い、討議、発表をする予定。
今年度、1～4 年のすべての学年で実施。
答えの無いところから答えを探す活動をさせる。

- 質問 総合的な探究の時間の評価はどうするのか
 - 難しい、5段階などでの数値化は難しいが検討していく。
- 質問 スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの192時間の使い方
 - 使い分けていく。スクールソーシャルワーカーは地域と生徒と学校をつなぐ役割。家庭訪問に同行してもらうこともある。

(3) 令和元年度学校教育計画

- ア 年間行事予定
 - ・今年度より授業公開日を設定
- イ 年間授業日数
 - ・全日制並みの授業日数を確保
- ウ 道徳教育
 - ・今年度より道徳教育推進教員を設置
- エ 人権尊重の教育
 - ・日本語支援サポーター
 - ネパール語、中国語を母国語とする生徒が在籍
 - 中国語は支援サポーターが、ネパール語は非常勤講師が対応
 - ・支援教育コーディネーター
 - 悩みを抱える生徒への面談や調整のためスクールカウンセラーと連携
 - 支援が必要である生徒をスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにつなぐだけでなく、就職支援面でも活用
- オ 危機管理体制の確立
 - ・昨年度の大阪北部地震をふまえ、生徒全員分の簡易トイレを配備
 - ・非常食の配備も予定している
- カ 教員研修計画
 - ・パッケージ研修も含め、授業改善のための研修を多数計画

(4) 各分掌からの取り組みの説明

- ア 進路指導部
 - ・新入生対象でハローワーク求職指導 12名参加
 - ・ジョブチャレンジプログラム（有給職業体験）今年度6名参加予定
 - ・中小企業家同友会との連携
 - ・昨年度の就職希望者は21名 卒業時の就職決定率92.7%（過去最高）
 - ・総合職や事務職でも内定
- イ 生徒指導部
 - ・懲戒規定の見直し（より細かく提示）
 - ・正門指導の実施（上履きでの校外への外出対策）
 - ・図書館利用者が急増。しかし本来の目的以外で訪れる生徒も多くオアシス化。

- ・文化祭の実施方法の変更
- ・部活動の参加率が昨年度より減少

ウ 教務部

- ・在籍報告
- ・0時限目授業の実施
- ・「総合的な探究の時間」においてクエストエデュケーションの導入
- ・令和2年度使用教科用図書選定状況の報告

エ その他学校の取組みと生徒状況（教頭より）

- ・年齢別在籍生徒数について
 - 1年生は学齢の生徒が多く、2年生～4年生についても若い生徒が多く在籍している。
- ・年齢別教員数について
 - 教員の平均年齢 38.5 歳
- ・生徒数について
 - H25年と比較すると大幅に減少。さらにH27年には登校実績のない生徒の在籍管理を行ったため激減している。しかしながら、今年度入学者数が増えた。広報活動の効果で中学校からの後押しもあったかもしれない。
- ・部活動について
 - 休部中の部活動が多い中、昨年度は文化部の活動で素晴らしい成果があった。大阪府高等学校定時制通信制生徒秋季発表大会において、絵画の部で知事賞、生活体験発表の部で大阪府議会議長賞、書道の部で大阪府教育委員会賞を受賞。

- 質問 授業日数の確保について。ゴールデンウィークや秋休みなどもある中、どのように確保しているのか
 - ゴールデンウィーク、G20などの影響があったが、遠足の代休をずらすなどして、授業日数を確保した。
 - 卒業式の2月実施や、2月定期考査の日程を学年ごとにずらすなどの工夫により、授業日数を確保した。
- 質問 定通併修での教員の仕事の役割、どのような形態で指導しているのか
 - また、追加で授業を受けなければいけないのか（0限目や放課後指導など）
 - スクーリングは通常授業と同じ時間中に抜き出して授業を実施。レポート課題も本校の教員で行う。
 - 本来は桃谷高校に登校しなければいけないがそれは難しいため、桃谷高校から委託され本校の教員がスクーリング、レポート課題を担当する。また、本校の授業日数が多く、また、通信制の単位認定のための要件の下限が低く、抜き出し授業でも単位修得ができる。

- 質問 生徒数の減少の理由とは
 - 子どもの人数自体が減っている。全日制の受験者数も減っている。
- 質問 ハローワーク、インターンシップ、ジョブチャレなどへの生徒の参加が少ないようだが生徒の自主性に任せているのか、それとも教員がアプローチをかけたのか。また、参加している生徒に共通してみられる特長はあるのか。
 - 担任の声掛けしだい。生徒がどのような印象を受けたのかが大きく影響する。
- 質問 図書館利用の人数について、授業中に図書館にくるのか、授業前からくるのか。
 - 授業に出て疲れたから図書館に行く生徒が多い。
- 質問 途中で図書館に行った場合、授業は欠席になるのか。
 - 授業に40分でなければ欠課にしている。
- 質問 ネパール籍、中国籍の生徒についてどのようなサポートをしているのか。また昨年度も同じ指導を受けてきたのか。
 - 週4時間の抽出授業を受けている。他の授業は他の生徒と同様に受けている。抽出授業は学校設定科目の日本語の科目。どちらも日本語検定N3を取得済み。教育庁の予算の関係上、おそらく3年生になるとサポートをつけることができない。他校にも同様のサポートが必要な生徒が多数在籍している状況である。

(5) 意見交換

(授業見学について)

- 感想 スマホをいじっている生徒、居眠りしている生徒が目立った。
 - 指導マニュアル、指導ラインを教員間で共有し今後指導していきたい。
- 感想 昨年生物の授業を見学したが、生徒一人ひとりがバラバラであった。今回、世界史の授業を見学した。教員はフレンドリーであったが生徒が好き勝手にしゃべっており授業が進むのか不安になった。
- 感想 それぞれの先生の持ち味を生かした授業をしていただけたらと思う。
- 感想 昨年度より生徒が落ち着いているように見えた。1限目に授業なのに出席している生徒が多く驚いた。生徒の遅刻、欠課などに対する意識が変わったのかと感じた。

(6) まとめ

次回の運営協議会

11月1日(金) 18:00~19:30 同場所にて